

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

三好市立芝生小学校  
「学力向上実行プラン」

- 主体的・意欲的な学びを創る活動の場や内容の創意工夫
- 書く・話す活動を重視した言語活動の充実

学力向上推進員 宇山 知恵美	委員 校長 豊田佳男 教頭 清重 正俊
	生徒指導主任 大岩 教泰 研修主任 三間 由美
	推進委員（低）高崎まほら 推進委員（中）濱口 久弥 推進委員（高）永山 睦子

校長

豊田 佳男

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業観察や研修など、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけてきて、与えられた課題は、ほぼ全員が提出することができる。真面目に学習に取り組んでいる。 ○聞き手・話し手を意識した活動ができるようになり、読解力・表現力が高まってきている。  ●長い文章を正確に読み取ったり、要点をおさえ、まとめたりする力が十分に育っていないのが課題である。	・学習規律を守って、落ち着いた環境で学習に取り組むことができる。 ・発達段階に応じて、400字程度の文章を正確に読み取ることができる。 ・既習の漢字の8割以上を読んだり、書いたりできる。	・チャイムを守って着席し、教科書などの7点セットを準備しておくよう、声かけしたり掲示したりし徹底する。 ・ポイントとなるところにアンダーラインを引かせたり、箇条書きや色分けをさせたりする。 ・主述の関係や修飾・被修飾の関係に、丸や四角で囲みをつけて読み取らせる。 ・音読、読み上げ計算を毎日1回はする。 ・ペア学習を取り入れ、話し合い伝え合う活動を増やす。	・週1回程度、漢字小テストを行い、漢字の定着を図る。 ・朝の活動(基礎学)の時間に、読解プリント等に取り組み、個々の力の補充をする。	・8割以上の児童が学習準備を整え、落ち着いて学習に取り組むことができた。 ・文章の構造を視覚的に理解できるようになってきている。 ・漢字の小テストを継続して行ったが、既習漢字の習得率は7割台にとどまっている。	・読解力育成の取り組みを継続することに加え、ICTや思考ツールの活用などの工夫をする。 ・「話し合い伝え合う活動」は今後も授業研究の中心テーマとして、研修を重ねる。 ・段階的に読解力を育成するための教材開発や授業研究を進める。 ・引き続き漢字の小テストを行い、より一層の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを使い、自分の意思を表現できるようになってきて、自分の考えを言葉で伝える場面が増えてきた。 ●自分の考えをもち、友達の考えと比べながら、自分の考えを見直したり、表現したりすることに課題がある。 ●自分の思いを言葉や絵・図を使い、順序立てて豊かに伝えることに課題がある。	・友達の考えと比べながら自分の考えを持つことができる。 ・自分の考えを、伝えやすい方法・手段で伝えることができる。 ・習得した力を活用しながら、より深く学ぶことができる。	・ICTや黒板を活用し、自分の考えと友達の考えを可視化し、比べさせる。 ・話し合いのしかたを提示する。 ・ホワイトボードや付箋などを効果的に活用した活動を取り入れる。 ・同じところと違うところに着目できるように発問の工夫をする。例「別の言葉で言い換えると？」など	・改めてハンドサインの意味ややり方を共通理解して、学習の中に取り入れていく。	・タブレット・多様な思考ツールや図を使うことで自分の考えを整理したり、友達の考えを理解したりすることができた。 ・ハンドサインを効果的に使うことによって、話し合いがつながっていくようになってきた。	・ICT活用のメリットとデメリットを整理し直す。 ・自分なりの考えを持たせ、伝え合う時間を確保し、学び合うよさを実感できる授業実践に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○振り返りの時間の確保により、自分の学びに気付くことができている。 ○家庭学習のルールを守り、自主学習に進んで取り組むことができている。 ●深めたい学習を選択したり、友達のやり方・考え方を取り入れたりと、学習計画を立てて取り組むことに課題がある。	・月に一度、苦手な課題を自主勉ノートで復習することができる。 ・自分の成長に気づき、「次はこうしたい、もっとやりたい」とさらに学ぼうとする意欲を持つことができる。	・よくできている自主勉ノートを背面黒板に貼り、紹介する。 ・拳手やカード、ワークシートなどで、毎時間ふり返りを行う。 ・めあてとわかったことを確認し、思ったこと、気づいたことについて段階を踏んで詳しく書けるようにしていく。	・振り返りをお互いに見合えるように掲示したり、発表し合ったりすることで共有し、さらに学ぼうとする意欲を引き出す。	・優れた自主勉ノートを掲示したり、紹介したりすることで、自分の自主勉ノートに生かしたり、自分に合った学び方を見つけたりすることができた。 ・毎時間の振り返りや単元ごとの振り返りを行うことで、できるようになったことを自覚し、次の学びへの意欲を高めることができた。	・自分の振り返りだけでなく友達の振り返りを見る機会をつくることで、別の見方・考え方に触れ、さらに意欲を高められるようにする。 ・タブレットを活用し、自分の興味関心のあることや問題解決に向けて追究することができるように工夫する。

令和4年度 学力向上ロードマップ

